

2025
7・8
合併号
NO.480

調査ニュース

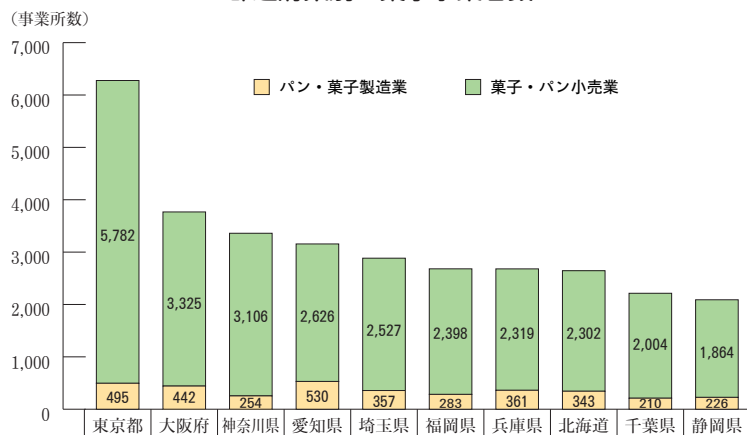
今月の注目点

あさひかわ菓子博2025が開催 ～事業者が一丸となって伝統文化や北海道の魅力を発信～

2025年5月30日から6月15日まで、日本最大級のお菓子の祭典である「第28回全国菓子大博覧会・北海道（あさひかわ菓子博2025）」が旭川市を舞台に開催されました。北海道での開催は、1968年の札幌以来、57年ぶり2回目となります。来場者は芸術性の高い工芸菓子や、ゲームやクイズの体験型ブースなど、お菓子の持つ多様な顔に触れることができました。

北海道は、菓子製造業者や菓子小売業者の事業所数が全国でも有数の規模を誇り、今回のあさひかわ菓子博では、道内の菓子事業者が中心となって、伝統技術の継承や菓子業界の発展を願い、持続可能な大会運営を模索しながら、従来とは一味違う菓子博を作り上げました（P 3－5に続く）。

都道府県別の菓子事業者数



（注） 産業小分類における「パン・菓子製造業」、「菓子・パン小売業」を菓子事業者とした。

（出所） 総務省・経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査」を基に、道銀地域総合研究所作成

第28回 全国菓子大博覧会・北海道

あさひかわ
菓子博 2025

SMILE SWEETS HOKKAIDO



最近の道内経済動向 2

トピックス 3
●日本最大級の菓子文化の祭典 あさひかわ菓子博2025が開催

道内産業ミニレポート 6

図表でみる北海道 シリーズ⑩ 8
●「温泉大国・北海道」を読み解く
～ 湯けむりの先にみえる魅力 ～



最近の道内経済動向

○道内景気は、緩やかに持ち直している。

○先行きは持ち直し基調が続くと見込まれるものの、米国の通商政策による不確実性が高まっている。

(注) 基調判断は2025. 6. 23時点で入手可能な主要経済指標を参考とした(4～5月実績が中心)。

●個人消費は下げ止まっている

4月の供給側の統計(インバウンド向けを含む、商業動態統計など)をみると、百貨店・スーパー(既存店、前年比+1.5%)は22年3月以降、増加が続いている。また、コンビニエンスストア(同+1.5%)は7ヵ月連続で増加しており、供給側では物価高の影響もあって増加が続いている。新車販売台数(軽含む乗用車、同+5.5%)は4ヵ月連続で前年を上回った。需要側の統計をみると、家計の消費支出額(4月の家計調査を基に算定した物価高の影響を除いた実質額)の底打ちが確認できた。総じてみれば、個人消費は下げ止まっている。

(注) 既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている事業所を指す。

●観光は持ち直している

道内への外国人入国者数(5月:11.7万人)は前年比+15.0%と持ち直している。また、来道者数(4月:100.5万人、国内交通機関経由)は同+6.9%と、11ヵ月連続で前年を上回った。観光は、外国人入国者数・来道者数ともに持ち直している。

(注) 外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人数。来道者数とは、国内路線(航空、JR、フェリー)利用による旅客数(国内客と道外で入国手続きした外国人客)を指す。

●住宅建築は下げ止まりの兆しがみられる、設備投資は持ち直しの動きがみられる、公共工事は緩やかに持ち直している

新設住宅着工戸数(4月:1,884戸)は前年比▲45.2%と6ヵ月ぶりに減少した。建築基準法などの改正を前にした駆け込み需要はく落し、減少に転じたとみられるものの、均してみると下げ止まりの兆しがみられる。主要な利用関係別にみると、持家(同▲44.6%)や貸家(同▲59.9%)、分譲住宅(同▲12.8%)のすべてで減少した。分譲住宅の内訳をみると、マンション(同▲10.0%)、戸建て(同▲25.1%)ともに前年を下回った。

北海道財務局が公表した法人企業景気予測調査(令和7年4～6月期。以下、法人企業景気予測調査)の設備投資額(ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く)をみると、25年度は全産業が前年比+22.7%、製造業が同+21.4%、非製造業が同+23.3%の増加計画となっている。

公共工事出来高(4月:1,135.1億円)は前年比▲10.9%と15ヵ月ぶりに減少した。一方、公共工事の契約ベースである公共工事請負金額(5月:2,213.6億円)は同+6.2%と2ヵ月連続で増加した。

●生産は一進一退の動きとなっている

鉱工業生産(4月)は前月比▲0.7%と2ヵ月ぶりに低下した。「輸送機械」(同▲8.3%)や「電気機械」(同▲7.9%)などが低下し、全体を押し下げた。

●輸出は持ち直しつつある

通関輸出額(5月:334.4億円、速報値)は、前年比+38.0%と3ヵ月連続で増加した。東南アジア向けの「魚介類及び同調整品」(同+44.8%)などが全体を押し上げた。なお、米国向け輸出は同+29.1%と増加しており、通商政策による影響はまだ現れていないとみられる。

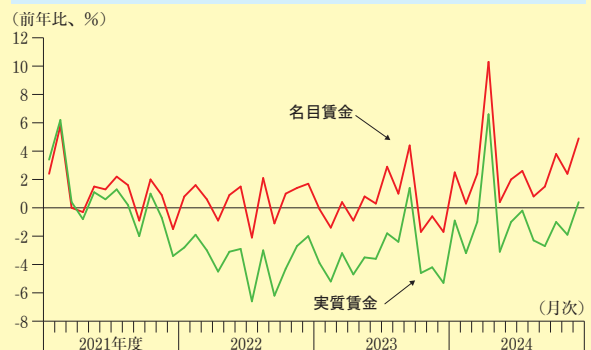
●雇用情勢は緩やかに持ち直している

4月の有効求人倍率(原数値、パート含む常用)は0.90倍(前年差▲0.01ポイント)と4ヵ月連続で1倍を下回った。一方、法人企業景気予測調査における従業員数判断BSI(「不足気味」-「過剰気味」)は37.8と、「不足気味」超となっている。総じてみれば、人手不足に起因した労働需給のひっ迫を受けて、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

道内における所得情勢の推移

道内における所得情勢を賃金指数で確認すると、名目賃金指数は2024年4月以降、前年比で増加が続いている。一方、物価の変動を除いた実質賃金指数は、25年3月に8ヵ月ぶりに前年比で増加したものの、依然としてマイナス圏で推移している。

先行きを展望すると、連合北海道が発表した25年春闘(第6回回答集計)における賃上げ率は4.93%と、比較可能な2016年以降で過去最高となっており、所得情勢の改善が期待できよう。



(注1) 直近は25年3月。

(注2) 賃金指数は現金給与総額のうち、規模5人以上の事業所の調査産業計。

(出所) 北海道「毎月勤労統計調査」を基に道銀地域総合研究所作成

日本最大級の菓子文化の祭典 あさひかわ菓子博2025が開催

菓子の伝統文化や全国各地の銘菓に触れ、老若男女の笑顔があふれたあさひかわ菓子博2025。延べ来場者数は約26万人を記録する一大イベントとなりました。開催にあたっては、熱意ある菓子事業者が、持続可能な運営モデルの確立へ向けて工夫を凝らす姿がありました。

お菓子の多様な魅力で人々を笑顔に

菓子博はお菓子の表彰や販売を通じて、お菓子の文化や技術、さらには地域の魅力を広く発信する博覧会です。古くは1911年（明治44年）に初開催され、その後ほぼ4年に1回ほど開かれてきました。直近では新型コロナウイルスの影響もあり、2017年の三重県伊勢市での実施以来8年ぶりの開催となりました。

あさひかわ菓子博2025は、道北アークス大雪アリーナを中心に開催され、お菓子をもつ「人を笑顔にする力」を届けようと「SMILE SWEETS HOKKAIDO」をテーマとした多彩な企画が実施されました。例えば、お菓子の実演コーナーや、ゲームなどの参加・体験型ブース、飲食コーナーが盛り上がりを見せました。さらに、一般投票によって選ばれた公式キャラクター「シマエ大福」も随所に登場し、来場者を楽しませていました。開催期間中、多くの家族連れや道内外からの来場者で賑わい、普段は目にすることのないお菓子の魅力に驚いたり、大人から子どもまで楽しめる様々な企画に参加する様子がみられました。まさに、テーマどおり人々の笑顔があふれる祭典となりました。

菓子職人の技が光る伝統の工芸菓子と人気を博する一般菓子

菓子博の1つ目の見どころは工芸菓子の展示です。砂糖やあん、チョコレートなど和洋

大雪アリーナ屋内会場入口付近の様子



公式キャラクター「シマエ大福」



シマエ大福

© 菓博北 2025

盛り上がりを見せる体験型ブース



菓子の材料を用いて、花鳥風月や情景を繊細に表現した工芸菓子は、いずれもお菓子とは思えないほど芸術性の高い作品ばかり。これらは表彰審査の対象となっており、まさに日本を代表する最高峰の技術が披露されました。

北海道からも約15体の工芸菓子が出展され、その中で函館市の和洋菓子店「和創菓ひとひら」が、最高位である名誉総裁賞を受賞しました。作品は架空の鳥「鳳凰」をモチーフとしており、羽一枚一枚に至るまで繊細に作られ、華やかな造形と鮮やかな色彩が来場者の目を引きました。その精巧なつくり、観る人々からは感嘆の声が上がりました。

あわせて、一般販売されている菓子も約1,200点が出展され、専門家及び一般市民による審査が行われました。ホリの「とうきびチョコ」や柳月の「あんバタサン」など、北海道民になじみが深いお菓子も名誉総裁賞を受賞しました。また、一般菓子部門で受賞したお菓子や、全国各地の銘菓は会場内の「全国スイーツマーケット」で販売されました。全国の銘菓が一堂に集まるまたとない機会とあって、会場は連日長蛇の列ができる盛況ぶりでした。道内では入手困難なお菓子をかご一杯に購入する来場者の姿も目立ちました。

菓子職人たちが技を磨き、競い合った作品や商品の数々を多くの来場者が目にした「あさひかわ菓子博2025」。本博覧会を通じて、伝統技術の継承と、菓子文化のさらなる発展が期待されます。

菓子事業者と地域でつくり上げる菓子博

菓子博の2つ目の見どころは、地域の事業者と住民が一体となって、作り上げた開催形態です。明治時代から脈々と続いてきた菓子博ですが、回を重ねるにつれて規模が拡大し、

和創菓ひとひら作『雅』



来場者に披露される受賞菓子作品



全国スイーツマーケットで販売された銘菓の一部



(実行委員会提供)

運営費の負担が大きくなることで、開催都市の選定が課題となっていました。

そこで今回は、従前の大会と比べて会期を短縮し、予算規模も抑えたコンパクトな大会を目指しました。そうすることで、中・小規模都市でも開催が可能であることを示し、今後の開催に向けた持続可能なモデルとして、注目されています。

「これほどまでに菓子屋が運営に深く関わった菓子博は、過去に例がないのではないかと話すのは水上実行委員長。従前の菓子博では外部の会社に委託していたプロデュースや細やかな運営業務を、今回は事務局が主体的に担い、委員長自身も開会中は、連日会場に立ち続けました。

その運営を支えたのは地元市民の貢献です。会場では通算700名を超えるボランティアが参加し、その様子からも市民の貢献度の高さが見て取れます。

また、会場設備等の準備には、可能な限り地元企業を活用するなど、「地域とともにづくり、地域へ還元する」という姿勢が随所にみられました。

さらに支援の輪は全国各地へと広がりました。今回のシンボル展示の一つである、お菓子の包み紙などで折られた折り鶴には、お菓子が食べられる平和な社会への祈りが込めら

れています。これらの折り鶴は、全国の菓子店等から募集して集められたもので、事務局の想定を上回る応募が全国各地から寄せられました。最終的には10万羽の折り鶴が集まり、会場の演出に花を添えました。

大規模なイベントを成功に導いたのは、熱意ある菓子事業者や地元市民。文字通り手づくりで運営に取り組み、その熱意をスイーツに乗せ、人々へ笑顔を届けました。

菓子業界の今後に向けて

あさひかわ菓子博2025は連日好評を博し、6月15日に盛況のうちに閉幕しました。延べ来場者数は約26万人に達し、旭川市で開催されたイベントの中でも、有数の規模となりました。菓子博をお菓子の原材料の一大生産地である北海道で開催したことについて、水上実行委員長は「菓子事業者が道産原材料の活用について、今一度考える一助となれば」と語っています。

原材料の産地としても、菓子業界の視点からも、北海道の存在感を改めて示すこととなったあさひかわ菓子博2025。この成功を糧に、北海道の菓子業界のさらなる飛躍が期待されます。

(中嶋 紗弓)

※注記の記載がない写真は筆者撮影

集まった折り鶴は会場各所で展示された



菓子店の店頭で集められた折り鶴



(実行委員会提供)

道内主要産業の現況について取り上げます。連載最終回となる今月号では、「農業」と「水産業」の2業種についてまとめました。

(注) 図表のデータは特段ことわりのない限り「北海道分」としています。

農 業

耕種部門・畜産部門ともに規模を維持

まず農業産出額の推移を確認すると、直近2023年は1兆3,478億円と、第2位の鹿児島県(5,438億円)の2倍以上の差をつけ全国トップを維持しました(図表1)。また全国シェアをみても、同年は14.2%と上昇基調で推移しており、北海道における農業が着実に進展していることが確認できます。

また、1経営体当たりの面積の推移を確認すると、田・畑ともに拡大傾向で推移していることがわかります(図表2)。この背景には、法人・団体による農業経営体の増加があります。これらを通じた事業規模の拡大によって、農業の持続可能性を高める可能性があるといえそうです。

データの活用が農業進展を下支え

とりわけ、データを活用した農業への取り組みでは、北海道は全国よりも高い割合となっています(図表3)。データを活用することで、農業従事者の高齢化・人手不足に起因した熟練技術の継承のほか、気候変動など環境問題が巻き起こす課題への対応が可能になっていると考えられます。また、データの活用と上述の農業の規模拡大には、互いに密接な関係がありそうです。

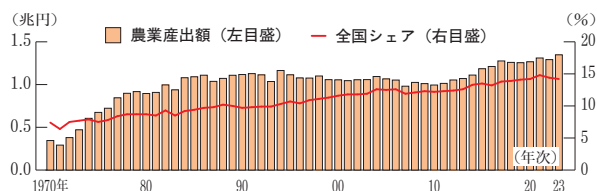
米の小売価格は高水準も、先行きは値下がりへ期待感

米の価格については、避けて通れないテーマです。札幌市内における小売価格を確認すると、直近25年5月は4,248円と高水準で推移しています(図表4)。特に昨年の秋、価格は急騰しました。

こうした状況を受け、政府は備蓄米の放出に踏み切りました。米の取引上、川上側の取引価格である相対価格*は依然として高値で取引されている一方、先行きは備蓄米の放出が需給を緩和し、小売価格を押し下げる効果が期待できるかもしれません。

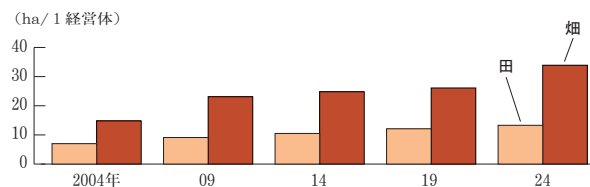
(※) 相対価格とは、出荷団体と卸売業者との間で、主食用米を取引する際の価格のこと。

図表1 農業産出額と全国シェアの推移



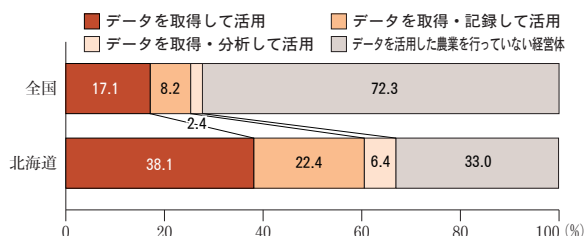
(注) 農業産出額とは、農業における最終生産物の生産額をいい、品目ごとの生産量に品目ごとの農家庭先販売価格を乗じて推計したものを指す。
(出所) 農林水産省「生産農業所得統計」

図表2 1経営体当たりの面積の推移



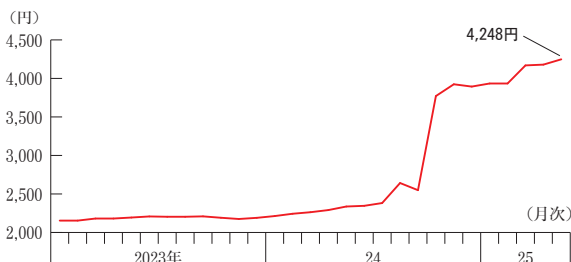
(出所) 農林水産省「農業構造動態調査結果」

図表3 道内ではデータの活用割合が高い



(注1) 「データを取得して活用」とは、気象、市況、土壌状態、地図、栽培技術などの経営外部データを農業経営に活用することをいう。
(注2) 「データを取得・記録して活用」とは、経営外部データに加え、財務、生産履歴、土壌診断情報などの経営内部データをスマートフォン、PCなどの機器に記録して農業経営に活用することをいう。
(注3) 「データを取得・分析して活用」とは、上記のデータに加え、センサー、ドローン、カメラなどを用いて、ほ場環境情報や作物の生育状況といったデータを取得し、分析して農業経営に活用することをいう。
(出所) 農林水産省「農業構造動態調査結果(2024年)」

図表4 札幌市内における米の小売価格



(注) 品目の【うるち米(単一原料米、「コシヒカリ」以外)】を米として掲載。
(出所) 総務省「小売物価統計調査(動向編)」

水産業

主要業種の漁獲量は減少が目立つ

漁業では、漁獲量の減少が続いています。海面漁業における2024年の漁獲量は78.6万トンと、ピークとなった1975年の248.9万トンから趨勢的な減少を辿っています。

主要魚種別の動向を確認すると、2003年以降、「ほたてがい」は栽培・養殖業が主体であることを受けて高水準で推移する一方、多くの魚種で漁獲量が減少しています（図表5）。他方、図表には含めていませんが、「にしん」や「ぶり」など一部の魚種では増加しています。漁獲量の動向は、自然環境の変化のほか、地道な資源管理の成果など、様々な要因が複雑に絡み合った結果と考えられます。

ほたてがいの輸出は復調へ

魚介類の輸出のうち「甲殻類及び軟体動物（主にほたてがい）」の動向を確認します。まず、中国による日本産水産物の禁輸措置を受けて、同国向けは23年以降急減しました。その一方、「米国向け（25年1-3月期：173.9億円）」や東南アジアを中心とした「その他の国・地域向け（同：321.1億円）」が代替輸出先として存在感を示しています（図表6）。

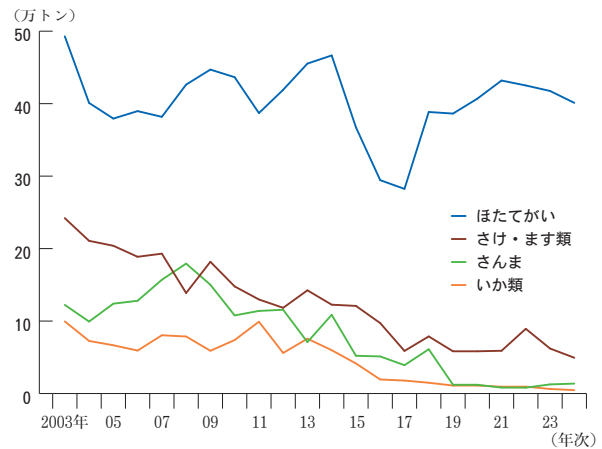
なお、米国は日本からの輸入品に執筆時点で10%の相互関税を課しています。その一方で、中国に目を向けると禁輸措置の解除を表明しました。水産物輸出を取り巻く情勢は、再び曲がり角を迎える可能性があります。

漁業就業者数は減少が続く

漁業就業者数の推移を確認すると、漁獲量の動きに呼応するかたちで、減少が続いています（図表7）。23年の就業者数は08年比▲40.6%（19,938人）と、大幅な減少となりました。また、就業者に占める65歳以上の割合をみても、23年には28.8%（08年：23.7%）と、就業者の高齢化が進行しています。こうした就業者の高齢化や担い手不足などは、避けては通れない課題です。上述の通り、漁獲魚種の変化など漁業を取り巻く環境は転換期を迎えています。人材確保・育成は、それらに対応するためにとりわけ重要なポイントになると考えられます。

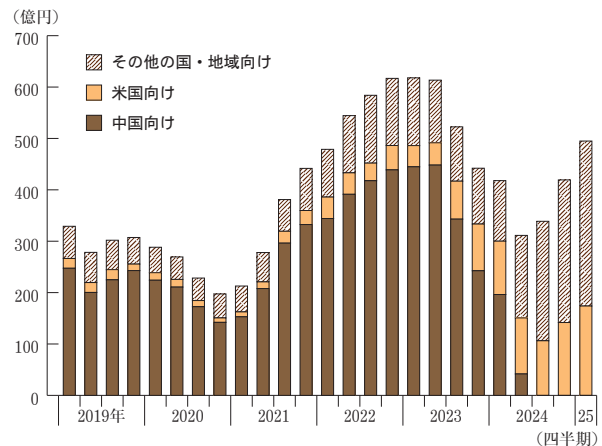
（小野 公嗣）

図表5 道内における主要魚種の漁獲量推移



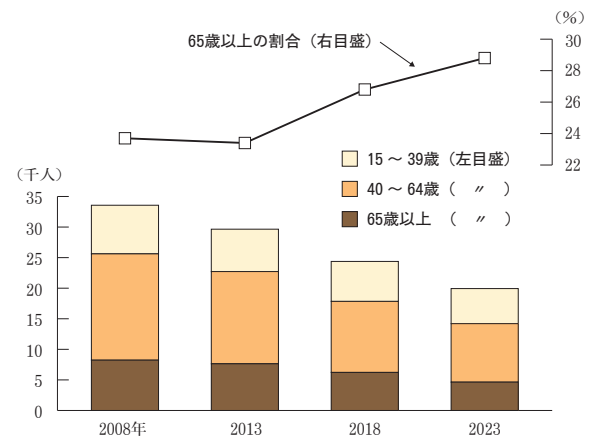
（注） ほたてがいは養殖業を含む。
（出所） 農林水産省「漁業・養殖業生産統計」を基に道銀地域総合研究所作成

図表6 「甲殻類及び軟体動物」の輸出



（注） 後方4四半期移動平均の年換算値。
（出所） 財務省「貿易統計」を基に道銀地域総合研究所作成

図表7 漁業就業者数の推移



（出所） 農林水産省「漁業センサス」を基に道銀地域総合研究所作成

「温泉大国・北海道」を読み解く

～湯けむりの先にみえる魅力～

本道は分布・量共に全国トップレベルの温泉地

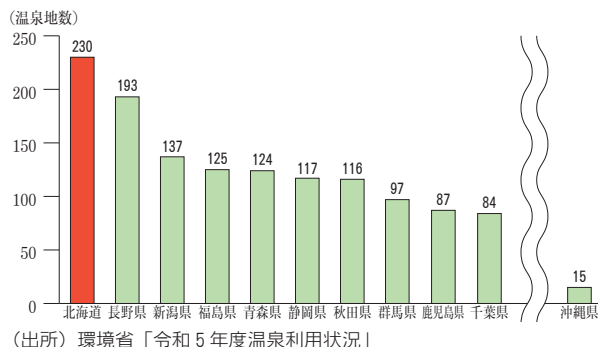
環境省「令和5年度温泉利用状況」によると、北海道の温泉地数は230カ所で、都道府県別では第1位となっています（図表1）。全国の温泉地数は2,857カ所あり、北海道はその約1割を占めることになります。さらに、その他の指標をみると（図表2）、源泉総数では、北海道は2,239カ所で第3位、ちなみに第1位は大分県の5,086カ所で、北海道の2倍以上にのぼります。湧出量については、北海道は1分あたり195,909ℓで、全国第2位の湯量を誇ります。最後に、温泉を利用した公衆浴場数に目を向けると、全国で7,746カ所あります。その中でも、北海道と鹿児島県はともに第3位の508カ所です。こうした数字からも、温泉が私たちの暮らしにとって、いかに身近な存在であることがわかります。

多様な泉質が楽しめる本道の温泉

北海道の温泉は泉質の多様性に特徴がみられます（図表3）。例えば、「塩化物泉」は、保温効果に優れており、冷え性や疲労回復に効果があるとされています。一方、「硫黄泉」は、独特のにおいと白濁した湯が特徴で、皮膚病などに効果があるとされ、登別温泉や温根湯温泉が代表例です。このように、北海道には多様な泉質を持つ温泉が点在しており、地域によって異なる湯の楽しみ方を味わえる点が大きな魅力です。

「湯に浸かる」ことにだけに留まらず、その背後に広がる自然や歴史、文化といった多様な魅力を内包している点にこそ、温泉の奥深さがあります。湯けむりの先に見えるその土地ならではの魅力を味わうことも、温泉の大きな醍醐味なのではないでしょうか。（伊藤 慎時）

図表1 都道府県別の温泉地数



図表2 温泉データからみる北海道

項目	全国		都道府県別上位		
	北海道		1位	2位	3位
温泉地数	230	2,857	北海道	長野県	新潟県
源泉総数	2,239	27,920	大分県	鹿児島県	北海道
湧出量 (ℓ/分)	195,909	2,496,157	大分県	北海道	鹿児島県
温泉利用の 公衆浴場数	508	7,746	長野県	静岡県	北海道 鹿児島県

(出所) 環境省「令和5年度温泉利用状況」等を基に、道銀地域総合研究所作成

図表3 泉質ごとの特徴と主な温泉地（道内）

泉質	特徴	主な温泉地
塩化物泉	体全体を塩分のバブルで包むため、保温効果が高い	豊富、天人峡、定山溪、湯の川
硫黄泉	独特のにおいがあり、解毒作用も強い	登別、温根湯、羅臼
炭酸水素塩泉	肌をなめらかにする、切り傷、冷え症に効果がみられる	ニセコ、然別、知内
酸性泉	殺菌力が強いので、皮膚病に効果がある	十勝岳、カムイワッカ、川湯
単純温泉	無色透明。肌触りが柔らかく、肌への刺激が少ない	阿寒、北湯沢、カルルス

(注) 温泉地には複数の泉質を有する場合がある。

(出所) 日本温泉協会、北海道観光機構、北海道立衛生研究所の資料などを基に、道銀地域総合研究所作成

調査ニュース（2025・7・8）NO.480

発行 株式会社 北海道銀行（ウェブサイト <https://www.hokkaidobank.co.jp>）
企画・編集 株式会社 道銀地域総合研究所 経済調査部（照会先：伊藤）

〒060-0061 札幌市中央区南1条西4丁目16番地2 道銀ビル別館
TEL (011) 233-3562 FAX (011) 207-5220
〈本誌の無断転用、転載を禁じます〉